

クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔総合・救急診療科〕

指標名

7day Bounce-back admission(救急外来から帰宅後 7 日以内の予定外入院または予測されない死亡)の割合

目標・ゴール

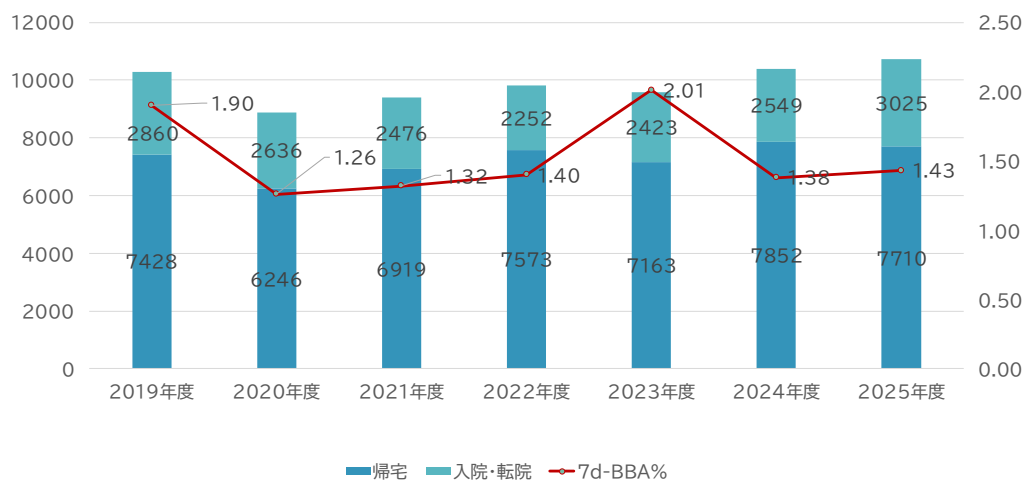
2.5%以下

目標・ゴール達成による効果

救急外来での的確な重症度判断により、患者の安全が保障される

目標・ゴールに対する成果の状況

帰宅・入院患者数と7day-Bounce-back Admissionの割合の推移



2025年度は、患者の受け入れ方式を変更したため、総患者数が前年比 114%、入院患者数が 119%に増加した。しかしながら、入院のハードルを下げたことで、全帰宅症例に対する 7d-BBA

症例の割合は、1.43%であり、前年から横ばい(患者数は前年比102%、割合は前年比104%)で推移した。

目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

- S :大幅に目標を上回った
- A⁺:目標を多少上回って達成
- A :目標を達成
- B⁺:目標を少し下回った
- B :目標を下回った
- C :目標を大幅に下回った
- :外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

本年度より、総合・救急診療科は医師2名体制となり、出向医師による救急診療のサポート体制が強化された。しかしながら、夜勤帯の総合・救急診療科医師の配置は十分でない。そこで、今後は総合・救急診療科としての医員の増員を図り、コメディカルとの協働体制を充実させることで、帰宅判断の妥当性を高め、さらに安全な診療を目指していきたい。